

科目名 (英)	臨床医学各論Ⅱ Clinical Medicine PartⅡ	必修 選択	必修	年次	3年次	担当教員	
学科・コース	鍼灸科	授業形態	講義	総時間 (単位)	60 2	開講区分	前期
						曜日・時限	

【授業の学習内容】

臨床医学各論では今まで学習した解剖学、生理学、臨床医学総論などの現代医学的な基礎的知識を活用し、現代医学に基づいた疾患の概念、原因、症状などを系統別に学習する。臨床医学各論Ⅰでは整形外科疾患、脳神経外科、一般外科疾患、麻酔科や呼吸器内科など一般診療科の代表的疾患について学習する。

1章～3章(感染症、消化器疾患、肝・胆・膵疾患)、5章～7章(腎・尿器疾患、内分泌疾患、代謝・栄養疾患)、9章～10章(循環器疾患、血液・造血器疾患)、12章～13章(リウマチ性疾患・膠原病、その他の領域(婦人科、小児科、精神科疾患、心療内科))を学ぶ。本授業の終了時には各疾患の概要、病態、特徴的な症状、診断、予後などの内容から鑑別のポイントを中心に説明できるようになる。

中
実務実績 鍼灸院での勤務後、鍼灸院指圧院を開院。診察から治療までの業務に従事
医療系専門学校にて教鞭をとる。

資 格 はり師、きゅう師、あん摩マッサージ指圧師

【到達目標】

教科書を中心に学習を進め、4章、8章、11章、12章の疾患を中心に各疾患の症状や診察結果を理解し、また検査結果から疾患や症候を想起できる。概要、病態、特徴的な症状、診断、予後に関連付けて理解する。本授業終了時には各疾患の鑑別のポイントを説明できるようになる。

<具体的な目標>

①各疾患の概要、病態、特徴的な症状、診断、予後や鑑別ポイントなどを資料を見ながら関連付けて説明することができる。

②上記①の内容について、資料を見なくてもキーワードを用いて説明することができる。

授業計画・内容

1回目	総論、細菌感染症(a.b.c.d.e.f.)について内容を理解し、説明することができる。
2回目	細菌感染症(g.h.i)、ウイルス感染症(a.b.c.d.)について内容を理解し、説明することができる。
3回目	ウイルス感染症(e.f)、性感染症(a.b.c.d.)について内容を理解し、説明することができる。
4回目	口腔疾患(a.b.c)、食道疾患(a.b.c)、胃・十二指腸疾患(a)について内容を理解し、説明することができる。
5回目	胃・十二指腸疾患(b.c.d)、腸疾患(a.b.c.)について内容を理解し、説明することができる。
6回目	腸疾患(d.e.f.g.h)、腹膜疾患(a.b.c.)について内容を理解し、説明することができる。
7回目	肝臓疾患(a)について内容を理解し、説明することができる。
8回目	肝臓疾患(b.c.d.e.f.)について内容を理解し、説明することができる。
9回目	肝臓疾患(g)、胆道疾患(a.b.c.)について内容の関連を理解し、説明することができる。
10回目	膵臓疾患(a.b.c.)について内容を理解し、説明することができる。
11回目	原発性糸球体腎炎(a.b)、腎不全(a.b.)について内容を理解し、説明することができる。
12回目	感染症(a.b.c)、腫瘍性疾患(a.b)、結石症(a)について内容を理解し、説明することができる。
13回目	前立腺疾患(a.b)、下垂体疾患(a.b.c.d.)について内容を理解し、説明することができる。
14回目	下垂体疾患(d)、甲状腺疾患(a.b.c.)について内容を理解し、説明することができる。
15回目	副腎疾患(a.b.c.d)、糖代謝異常(a)について内容を理解し、説明することができる。

準備学習
時間外学習
(目標①)前提:この授業を受けるには、主に解剖学(筋、骨、関節、神経など)、生理学(神経系など)、臨床医学総論の知識(検査、運動器疾患の徒手検査、神経系疾患の診察など)が必要。
(目標②)学習は復習を中心に行うこと。授業当日と次回の授業の前日に振り返りを行い、理解できていないことを把握し早めに対処すること。
(目標③)学習は教科書を中心に用いること。授業中に説明した内容をメモしておき、相互の繋がりがりや大事なポイントを中心に押さえる。教科書を見る回数を増やすほど大事なポイントが頭に残る。特に覚えることが苦手な人は教科書を何度も見直すことで大切なポイントが印象に残りやすい。

評価方法
成績の評価は、各科目の『試験』の点数で100点満点とする。
『試験』には科目試験や中間試験、小テスト等の臨時試験などが含まれる。

受講生へのメッセージ

【使用教科書・教材・参考書】

教科書:臨床医学各論(医歯薬出版株式会社)

参考書:解剖学(医歯薬出版株式会社)

生理学(医歯薬出版株式会社)

臨床医学総論(医歯薬出版株式会社)

科目名 (英)	臨床医学各論Ⅱ Clinical Medicine PartⅡ	必修 選択	必修	年次	3年次	担当教員	中 詩帆
学科・コース	鍼灸科	授業形態	講義	総時間 (単位)	60 2	開講区分	前期
						曜日・時限	

【授業の学習内容】

臨床医学各論では今まで学習した解剖学、生理学、臨床医学総論などの現代医学的な基礎的知識を活用し、現代医学に基づいた疾患の概念、原因、症状などを系統別に学習する。臨床医学各論Ⅰでは整形外科疾患、脳神経外科、一般外科疾患、麻酔科や呼吸器内科など一般診療科の代表的疾患について学習する。

1章～3章(感染症、消化器疾患、肝・胆・膵疾患)、5章～7章(腎・尿器疾患、内分泌疾患、代謝・栄養疾患)、9章～10章(循環器疾患、血液・造血器疾患)、12章～13章(リウマチ性疾患・膠原病、その他の領域(婦人科、小児科、精神科疾患、心療内科))を学ぶ。本授業の終了時には各疾患の概要、病態、特徴的な症状、診断、予後などの内容から鑑別のポイントを中心に説明できるようになる。

中
実務実績 鍼灸院での勤務後、鍼灸院指圧院を開院。診察から治療までの業務に従事
医療系専門学校にて教鞭をとる。

資 格 はり師、きゅう師、あん摩マッサージ指圧師

【到達目標】

教科書を中心に学習を進め、4章、8章、11章、12章の疾患を中心に各疾患の症状や診察結果を理解し、また検査結果から疾患や症候を想起できる。概要、病態、特徴的な症状、診断、予後に関連付けて理解する。本授業終了時には各疾患の鑑別のポイントを説明できるようになる。

<具体的な目標>

①各疾患の概要、病態、特徴的な症状、診断、予後や鑑別ポイントなどを資料を見ながら関連付けて説明することができる。

②上記①の内容について、資料を見なくてもキーワードを用いて説明することができる。

授業計画・内容

16回目	脂質代謝異常(a.b.c)、尿酸代謝異常(a)、その他の代謝異常症(a.b)について内容を理解し、説明することができる。
17回目	動脈疾患(a.b.c)について内容を理解し、説明することができる。
18回目	心臓疾患(a.b)について内容を理解し、説明することができる。
19回目	心臓疾患(b)について内容を理解し、説明することができる。
20回目	心臓疾患(b)について内容を理解し、説明することができる。
21回目	心臓疾患(b.c.d)について内容を理解し、説明することができる。
22回目	冠動脈疾患(a.b)、血圧異常(a.b)について内容を理解し、説明することができる。
23回目	赤血球疾患(a.b.c)について内容を理解し、説明することができる。
24回目	赤血球疾患(d)、白血球疾患(a)、リンパ網内系疾患(a)について内容を理解し、説明することができる。
25回目	出血性素因(a.b)について内容を理解し、説明することができる。
26回目	リウマチ性疾患(a)、膠原病(a)について内容を理解し、説明することができる。
27回目	膠原病(b.c.d.e.f.g)について内容を理解し、説明することができる。
28回目	婦人科疾患(a.b.c.d.e)、小児科疾患(a.b)について内容を理解し、説明することができる。
29回目	精神科疾患(a～d)、心療内科(a～c)について内容を理解し、説明することができる。
30回目	精神科疾患(a～d)、心療内科(a～c)について内容を理解し、説明することができる。
準備学習 時間外学習	(目標①)前提:この授業を受けるには、主に解剖学(筋、骨、関節、神経など)、生理学(神経系など)、臨床医学総論の知識(検査、運動器疾患の徒手検査、神経系疾患の診察など)が必要。 (目標②)学習は復習を中心に行うこと。授業当日と次回の授業の前日に振り返りを行い、理解できていないことを把握し早めに対処すること。 (目標③)学習は教科書を中心に用いること。授業中に説明した内容をメモしておき、相互の繋がりがりや大事なポイントを中心に押さえる。教科書を見る回数を増やすほど大事なポイントが頭に残る。特に覚えることが苦手な人は教科書を何度も見直すことで大切なポイントが印象に残りやすい。
評価方法	成績の評価は、各科目の『試験』の点数で100点満点とする。 『試験』には科目試験や中間試験、小テスト等の臨時試験などが含まれる。
受講生へのメッセージ	

【使用教科書・教材・参考書】

教科書:臨床医学各論(医歯薬出版株式会社)

参考書:解剖学(医歯薬出版株式会社)、生理学(医歯薬出版株式会社)、臨床医学総論(医歯薬出版株式会社)